

視 察 報 告 書

<p>調査・研究テーマ</p>	<p>不登校児童・生徒に対する教育支援</p>
<p>目 的</p>	<p>全寮制の不登校生徒の特例校、都市部にある通学制の特例校を視察し、今後の本市での特例校の意義、役割、導入について調査するため</p>
<p>内 容</p>	<p>日 時：2022年5月18日（水） 午後1時30分～3時30分 視察先：学校法人西濃学園　：西濃学園中学校（藤橋校舎） 岐阜県揖斐郡揖斐川町東横山1070 説明者：西濃学園中学校校長 平林 克友 氏 同 学園長 北浦 茂 氏 同 学園長代理 加納 博明 氏 参加者：小川 寿士、浜口 健司、佐伯 加寿美 報告書作成者：佐伯 加寿美</p> <div data-bbox="679 1126 1211 1525" style="text-align: center;"> </div>
<p>概 要</p>	<p>さいたま市では今年度から不登校等児童生徒支援センター（通称：G r o w t h）を今までの市内6カ所の教育相談室のほかに設置し、支援を始めた。そこで今回の視察では一歩進んだ形の「特例校」を、全寮制の学校と通学制の学校2校を訪れた。ここでは全寮制の学校を取り上げる。</p> <p>岐阜県の西濃学園は学校に行きたくても通えない子どもたちのために2017年に文部科学省より認定を受け、不登校特例校として全寮制で、不登校生徒のための中学校を開校した。</p>

<p>概 要</p>	<p>寮を完備しており、同じ釜の飯を食べることで社会性を育む。豊かな自然に恵まれた山間の「藤橋地区」にあり、地域の行事に参加するなどアットホームな環境下の学校である。中学生24人。教員は15人、非常勤教員10人。</p> <p>高校はこの4月から全日制としてスタートさせ、生徒は30人、教員は12人、非常勤教員8人で構成している。またソーシャルワーカーを中学では3人、高校では2人置いている。</p> 
<p>所 見 ・ 成 果</p>	<p>不登校生徒は心の病を抱えている方も少なくない。西濃学園では学習指導要領にはない、心のケア、人間関係づくりを目的にした、「ソーシャルスキルトレーニング」という授業を設けている。ケースカンファレンスの充実など臨床から指導できるようにソーシャルワーカーが常駐しているのも、通常の学校とは違う点である。</p> <p>また、学力の遅れのある生徒も多いため、国語、英語、数学の少人数指導もあり、生活面から学力支援に至るまで生徒数に対する職員配置が多いことも、生徒一人一人に寄り添った対応だと感じた。</p> <p>また山間部ということもあり、地域の方々とのふれあいも授業の一つに組み込み、寮生活で同じ釜の飯を食べるという生徒同士のつながりも、今まで薄かった人間関係を築き社会性を育むことにつながっている。</p> <p>西濃学園は設立から10年が経つが、今年までに3人の卒業生が教員としてここに戻ってきている。まさに学びの循環であると言える。</p> <p>さいたま市や埼玉県には不登校特例校がまだ設置されていない。今後設置するとしたらカリキュラム、生活支援、心のケア</p>

<p>所見 ・ 成果</p>	<p>への対応や、どのような体制を整え、どういった点に留意していくのかなど非常に学びが多かった。</p> <p>今後、さいたま市での不登校児童生徒への対応の仕方や特例校を設置することへの可能性について、議会質問等を通じて提案していきたい。</p>
<p>基本政策</p>	<p>4.すべての子どもと若者に夢とチャンスを</p>